

佐鳴台小コミュニティ・スクールだより

NO.13 佐鳴台小学校 令和7年12月8日



地域の皆さんが応援団 3



佐鳴台シニアクラブのみなさん

4年生は、総合的な学習の時間に「だれもが笑顔に」をテーマにして学習しています。

4月と9月には自治会や民生委員の皆さんの代表の方からシニアの皆さんの生活などのお話をお聞きしたり疑問に思ったことを質問したりしました。また、車椅子体験や高齢者体験なども行い、それぞれの気持ちを理解する学習に取り組んできました。

10月23日には、今までに学習したことを基に一緒に遊べる遊びを考え、シニアの皆さんと交流会をもちました。当日はたくさんのシニアの皆さんが来校してくださり盛り上がりしました。

私たちは「ビー玉迷路」を作りました。シニアの方の体のことを考えて座ってできるし気持ちを込めて手作りしたいと思ったからです。

当日は、「楽しかったよ。ありがとう。」と言ってくださった方がいてとてもうれしかったです。でも、シニアの方から「みんなの声が大きい。」と言われて、シニアの方は「聞こえない」ということには気を付けていたけれど、「うるさい」ということには気を付けていなかったと思いました。耳のことにも気を付けた方がいいことがわかりました。



シニアの方が昔遊びをすると、心の中で昔のことを思い出すのではないかと思います。やっている自分も楽しくなってシニアの方も「楽しい」と言ってくれてとてもうれしくなりました。

エスコートしているときにいろいろな話をしてくださって、私たちと何十年も年が離れていても話ができるしみんな優しいなと思いました。今回、笑顔になってくれて幸せに思ってくれたかなと思いました。さらに改善したいと思ったことは、もっとゆっくり話したり歩いたりした方がいいことです。福祉ってみんなが笑顔になることだな、人の気持ちを考えるとみんなが幸せになれるんだなと思いました。



「すごろく」をやってみて、シニアの皆さんが喜んでくれて楽しそう自分たちも楽しくなりました。いろんな人が遊びに来てくれてうまくいったなと思いました。改善したいと思ったことは、すごろくの中の問題に「なぞなぞを言う」というところが多かったので少し少なくしたいと思いました。すごろくをやる時間が長くなってしまったので、もう少し短い方がよかったと思いました。シニアの方は、手や足が悪かったり、体力がなかったりする人もいますと以前のお話から学んだので自分ができることは手伝いたいと思いました。また、高い声は聞き取りにくいと聞いたので低い声で話したいと思いました。これからシニアの方に出会ったらちゃんとあいさつしたいと思いました。



シニアの皆さんからは、次のような感想をいただきました。

- 子供たちの目が輝いていて生き生きしていた。一緒に遊べてとても楽しかった。
- 子供たちの発想が素晴らしいと思った。また、どの遊びも全て手作りで感心した。
- 子供たちがとても親切で、よくしてもらえてうれしかった。
- 子供の声は高いし、話し方が早口になるので、少し低めの声でゆっくり話してくれるとよいなと思った。

参加して下さった皆さんありがとうございました。

11月6日の「昼休みのシニアの皆さんとのふれあいの会」では、4年生が中心となって10月23日の交流会を振り返り、反省を生かしてシニアの皆さんや全校児童（自由参加）を対象にして会を行いました。今回は低学年の子も参加したので、いろいろな年齢の方のことも考えることができました。

お話ししながら楽しくゲームをするように心掛けたよ。シニアの方が話したら、「そうですね」などと返事をするようにしたよ。

シニアの方も低学年の子も遊べるように、ボーリングでは、「簡単コース」と「難しいコース」の二つのコースを作ったよ。



今度はゆっくりはっきり話そうようにしたよ。低学年の子には、やり方を分かりやすく説明するようにしたよ。

歩くときには、シニアの方のペースに合わせたよ。

